

## ○基礎情報

対象処理場	(1) 下水浄化工場 (2) 北会津北部浄化センター
対象汚泥量※1 (乾燥重量)	(1) 2245t/年 (2) 81t/年
現在の 汚泥処理方式	(1) 濃縮→消化→脱水 (2) 濃縮→脱水
想定する 肥料利用形態	コンポスト化
肥料利用の 目標値	全量コンポスト化 (2029年度内)
投入原料	下水汚泥
関係団体	会津若松市 ・ 下水道施設課 ・ 農政課 肥料メーカー

## 1.令和4年度末時点までの背景

○市内で発生する汚泥の約66%を委託によって肥料化している。  
 ○上記と別に、0.6%=約20t/年を処理場内で肥料化しており、作成したコンポスト（あいづ土根性）を市民に無料配布している。 ※残りは焼却埋立。  
 ○肥料化施設の建設を考慮したが、課題が多く、短期的な取組からは除外した。  
 → 短期で想定される肥料化手法は**委託による肥料化**。

## 2.肥料化に向けた課題

- ①【委託】委託量を増加する方針としているが、急激な増加は難しい。
- ②【直営】場内の肥料化量の増加は難しいと管理会社から回答を得ている。
- ③ 新規委託先を調査する必要があるが、近隣の産廃業者や受入可否、受入可能量といった情報が不足している。
- ④ 重金属の懸念（イメージ）
- ⑤ 成分や施肥方法の情報不足。培ってきた農法から切替えるハードルが高い。  
→ 使用に当たっては実証に基づくデータが必要。

## 3.今年度の取組方針

### 課題に対する取組方針【Plan】

- ①②③ 近隣の産業廃棄物処分業者（15社）へのアンケート調査を実施  
本市の汚泥を受入れ可能な業者を抽出。  
→ 民間委託による全量肥料化の実現可能性を調査。
- ④⑤ 汚泥肥料への理解促進に向けた短期的な取組方針の決定  
（試験栽培、農家へ向けたPR、アンケート等）

※1：R4資源有効利用調査票より

### 4.今年度の取組内容と新たに得られた課題

#### 今年度の主な取組内容【Do】

- ①近隣の肥料メーカーを対象としたアンケート調査
- ②汚泥肥料への理解促進に向けた取組方針の調整

#### 検討のポイント

- ✓ 100km圏内の肥料メーカーを対象に受入可能量等のアンケート調査を実施し、新規委託先候補として2社を抽出。
- ✓ 処理場運転管理を包括委託しており、業務の中で「場内における試験栽培」を実施予定である。
- ✓ 試験栽培データや、あいづ土根性を利用した方の声を発信し、継続的なPRを図る。

#### 得られた課題【Check】

- ①新規委託先、現在委託先のどちらも新規コンポスト化施設を計画・建設中であり、受入開始まで数年間を要する。
- ②試験栽培方針（対象作物、期間、データのとり方など）は要検討であり、今後も業者との調整を続ける。

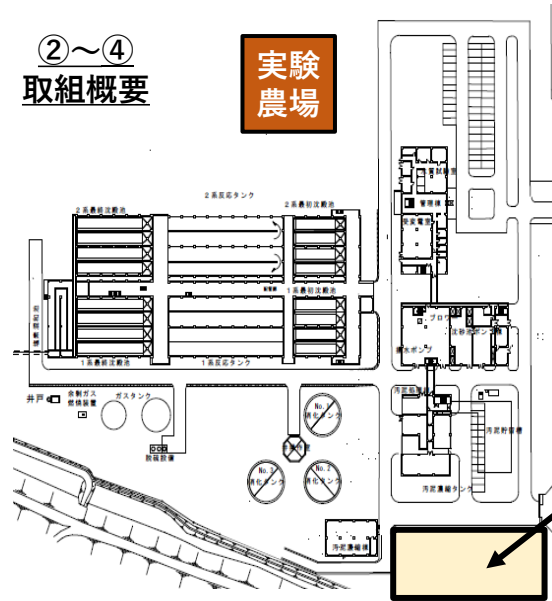
### 5.来年度以降の取組予定

#### 来年度以降の取組予定【Action】

- 当面の課題
  - ①外部委託による肥料化の促進（現在委託先、新規委託先）
  - ②試験栽培の方針決定～実施
- 継続的な課題
  - ③農政部局と連携した汚泥肥料の理解促進に向けた取組
  - ④試験栽培の継続、汚泥肥料のPR



②～④ 取組概要

**実験農場**



製造肥料：約24t/年

- ・市民への無料配布
- ・試験栽培の実施  
→汚泥肥料のPRに活用



肥料化施設

## 下水汚泥資源の肥料利用開始に至るまでのロードマップ（案）

下水汚泥資源の肥料利用に関する検討手順書 検討項目		現在	将来							
		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
基礎調査	下水処理場と周辺地域の特性整理									
	連携体制の構築									
下水汚泥の分析	産業廃棄物に係る判定基準の分析									
	重金属含有量の分析									
肥料化実施可能性の検討	肥料化手法の検討									
	外部委託の検討									
	関係者ヒアリングと流通経路の検討	JA会津よつばとの意見交換								
		新規委託先候補へのアンケート調査								
		現在委託先との協議・調整								
		新規委託先との協議・調整								
	新規委託先への肥料化委託 ※									
栽培試験の実施										
経済性の検討										
事業規模等の検討	当面の肥料生産量の検討									
	実施スキームの検討（PPP/PFI適用可能性検討）									
	下水道関連計画への反映									
肥料登録	肥料登録									

■：2023年度までに検討実施済の項目

■：今年度実施した検討項目および将来実施予定の検討項目

黒字：下水汚泥資源の肥料利用に関する検討手順書の検討項目

赤字：案件形成支援団体独自の検討項目

※ 各肥料メーカーの新施設運用開始は令和9年度を想定する。

### ～2024年度の具体的な取組予定～

- ・ 2024年4月～：現在委託先との調整
- ・ 2024年4月～：新規委託先との協議、調整
- ・ 2024年4月～：試験栽培に向けた調整（圃場整備、方針決定、栽培開始）
- ・ 2024年5月～：広報誌での汚泥肥料のPR（あいづ土根性利用者の声）